

強度行動障害支援部会 各位

事業の報告

岡山県相談支援専門員協会 平松 啓生

令和 5 年度の岡山県相談支援専門員協会の主催事業として、「強度行動障害にも対応した相談支援専門研修」を行いました。共催は、おかやま発達障害者支援センター、岡山市障害者基幹相談支援センター、倉敷地域基幹相談支援センター、津山地域障害者基幹相談支援センターです。

本研修は「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会 報告書（厚生労働省 R5.3.30）」をもとに相談支援専門員協会および基幹相談支援センターの役割（相談支援にあたる人材育成、相談支援事業所への後方支援等）として、おかやま発達障害者支援センターと共同企画したものです。

対象者は岡山県相談支援専門員協会の正会員で、県内各地より 12 名の参加申し込みがありました。申込受付にあたり、強度行動障害支援者養成研修の受講の有無、強度行動障害のケースの有無などを事前アンケートで把握しました。12 名のうち全員が研修（基礎＋実践）を受講済で、強度行動障害ケースを担当している方は 8 名、ケースの事例検討を希望した方が 4 名おられました。

本研修の到達目標は「相談支援専門員として、支援の方策を提案できる（伝えられるようになる）」ことです。2 日間の日程で開催します。1 日目は講義とグループワークを行いました。

○第 1 回 研修内容 令和 6 年 3 月 14 日（木）

|                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行動障害の基礎知識<br>(90 分)          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山県の動き（概要）、令和 4 年度実態調査など</li> <li>・行動障害の成り立ち（メカニズム）、ASD の特性</li> <li>・構造化療育の紹介</li> <li>・①構造化 ②見通し（スケジュール） ③ワークシステムや手順書 ④コミュニケーション（ほめ方） ⑤感覚への配慮</li> <li>（この 5 つのポイントをもとに支援会議等で質問できることを目指す）</li> <li>・行動分析（行動の 4 つの機能）、行動が生起や維持される要因 など</li> </ul> |
| 行動の背景のアセスメントのポイント<br>(120 分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・冰山モデルの作り方（特性や環境）</li> <li>※冰山モデル（障害特性の記述のしかた）の説明</li> <li>・行動分析の視点による行動の機能の理解および見立て、支援の手立て（ストラテジーシート） など</li> </ul>                                                                                                                                |

受講者からのアンケートでは、

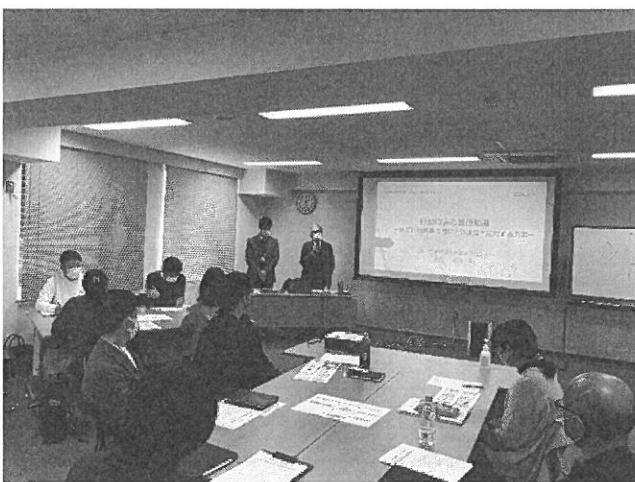
- ・ 支援チームとして共通認識をもっておくべき特性の理解や構造化の手法、視点を学べた。
- ・ 強度行動障害の方の受け皿がないと嘆いていましたが、現場で活用できる手順書やストラテジーシート、冰山モデルなど、これから現場で出来ること、チーム支援をする中でできることを具体的に学べた。
- ・ 不安優位な障害であることを理解し、安心できる環境を考えること、ほめることの大切さを理解することができた。
- ・ 支援チームで目的や目標を共有するための手立て、ツールの使い方を学べた。
- ・ 講義で学んだ具体的な手法を演習で取り組むことができた。

といった意見がありました。

一方で、

- ・ 考え方は理解できたが、実践する、説明するというスキルが必要と感じたので、支援者側が経験を積んでいかなければならないと感じた。
- ・ 知識や経験の少ない事業所や支援チームでの活用が難しいかもしれないと感じました。このツール（冰山モデルや行動分析、ストラテジーシート）を上手く使っていけるようになるまでの取り組みのアイデアや好事例があればご教示ください。
- ・ 頭では理解しているつもりですが、ストラテジーシートに書き込むとずれていたりします。書くことに慣れなるように積み重ねが必要だと思いました。

という意見もあり、専門性の向上や定着および般化させていくためには、実践的な研修を継続的に行う体制（OJT や OFF-JT、フォローアップ等）が必要であると感じます。



○第2回研修会は令和6年7月11日（木）に開催します。4名の方から事例を提供いただき、グループワークを行います。事例をもとにチーム支援を展開するうえで必要となること、相談支援専門員にもとめられる支援のマネジメント等を学びます。